



みんなのまちはみんなで守る 洪水や高潮を警戒する水防団員 大和川右岸水防事務組合

訓練重ねて緊急時に備える
多様な水防工法を地道に習得

——各分団、土のう造り、始め1つ!

4月21日、大和川にかかる遠里小野橋上流の河川敷で、大和川右岸水防事務組合(山本正行団長)の水防訓練が実施されました。堤防をはさんで右岸には住吉区の街並み広がっています。定期訓練が年に数回開かれ、この日は将来の幹部候補と期待される人材を対象とする中堅団員育成訓練に総勢105人が参加しました。

同組合は水防法に基づき、1953年(昭和28年)設立。大和川右岸の洪水をはじめ、木津川、住吉川、敷津運河および臨港区域の高潮、津波などの水災害を警戒・防ぎよすることで被害を軽減し、住民の命と財産を守ることを目的に活動を続けています。柏原市、八尾市、藤井寺市、大阪市平野区・東住吉区・住吉区・住之江区・西成区に17の水防分団が組織され、約1200人の団員が110万人区域住民のために水防活動を展開。住吉区には住吉第1、第2の2分団があります。



105人が参加した大和川右岸水防事務組合の中堅団員育成訓練
=大和川遠里小野橋上流の河川敷



土のう造りの訓練。土のうを堤防に積み上げて越水を防ぎます



頑丈な改良越水止めネット工訓練。越水を土のうで的確に食い止めるために開発されました



堤防裏側に噴出した漏水の被害拡大を防ぐ簡易釜段工訓練

水防訓練の様子をみてみましょう。堤防の越水を食い止めるのが土のう。団員たちはバケツの底を取り除いた特殊な用具で土砂をすばやく袋に詰めて土のうを造っていきます。頑丈な構造の「改良越水止めネット工」は、土のうを堤防天頂部にすばやく的確に積み上げるために開発されました。

昨年の台風21号襲来時に出動 若手世代の団員を募集中

昨年9月、台風21号が大坂を直撃。大阪湾が観測史上最高の潮位を記録し、関西空港冠水のニュースは内外に衝撃を与えました。大阪市内でも河川のはらんや高潮による被害が懸念され

たものの、事前に水門や防潮扉を閉鎖するなどの対策が徹底し、大きな水災害を防ぐことができました。水防団員が出動し、各持ち場で警戒監視活動に従事しました。

副団長の光原正憲さん(住吉川分団出身)は防潮担当。「団員たちが台風接近前にすべての防潮扉を閉鎖することができたのは、日ごろの訓練の成果」と、訓練の重要性を改めて実感。「みんなのまちをみんなで守る気持ちを大切に」と、地域住民に訴えています。

住吉第2分団長の桂武史さんは、大和川右岸の堤防にある分団倉庫兼屯所と同僚団員らと待機。堤防監視の際、「風が強いうえに、手を伸ばすと濁流に届くかと思うほど、水位が高くなっていた」と、緊迫した状況を振り返るとともに、「川の様子を見に来る人がいますが、危険なので絶対にやめてほしい」と、呼びかけます。

安藤洋三副団長も、住吉第2分団出身。20代で入団して以来、半世紀以上わたって大和川の水害からふるさとを守ってきました。「昔は地域の団結力が強かった。水害の恐れがあると、大人たちが自発的に活動するのを見ながら育った」そうです。3人のベテラン団員に共通する思いは若い世代へのバトンタッチ。同組合では新規水防団員を募集中です。

このページでは住吉区内で活躍されている人・団体・企業を紹介していきます



昨年9月の台風21号襲来時、大和川右岸水防事務組合の水防団員が出動(同組合提供)

問合せ
政策推進課
3階 35 番窓口
☎6694-9842
FAX 6692-5535

大和川右岸水防事務組合
住吉区遠里小野7-8-18 ☎6694-0271(代表) FAX 6694-5190
今年の訓練予定***
(水樋門鉄扉操作訓練)7月4日(木)・5日(金) (指導者養成訓練)9月15日(日)
新規水防団員や水防協力団体を募集中。問い合わせは同組合へ。

